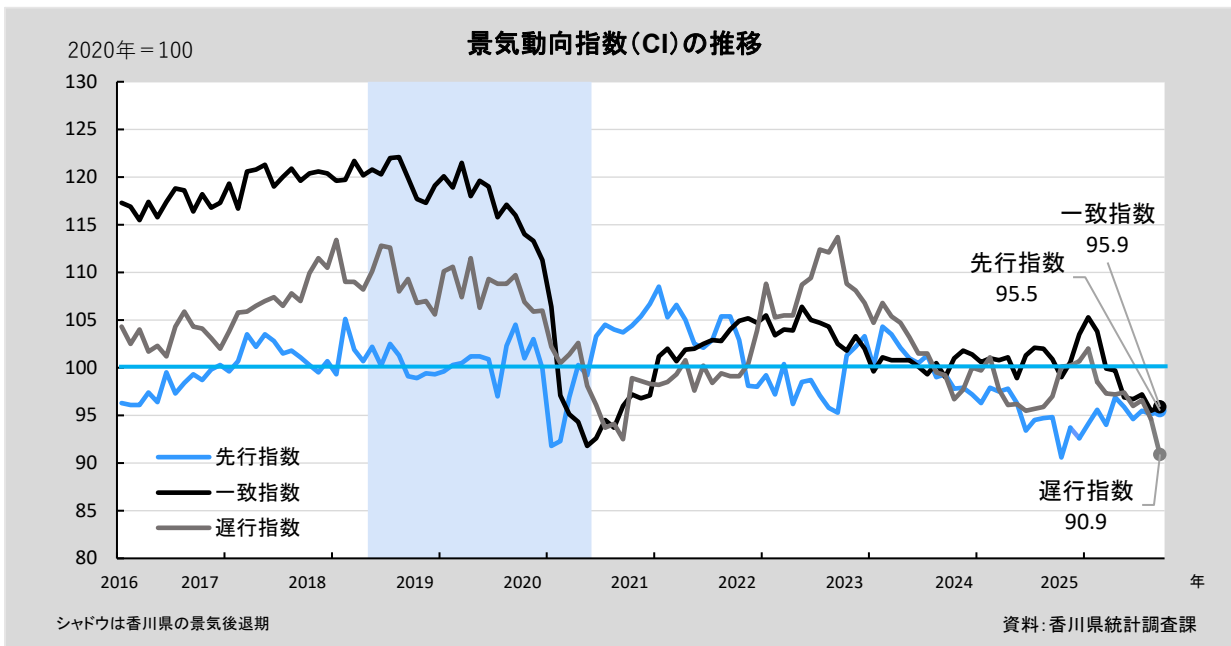


概況	持ち直している。
個人消費	緩やかな増加基調にある。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	持ち直しの動きがみられる。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	持ち直しの動きに弱さがみられる。
貿易	輸出、輸入ともに増加している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわCI) 一致指数 2カ月ぶり上昇



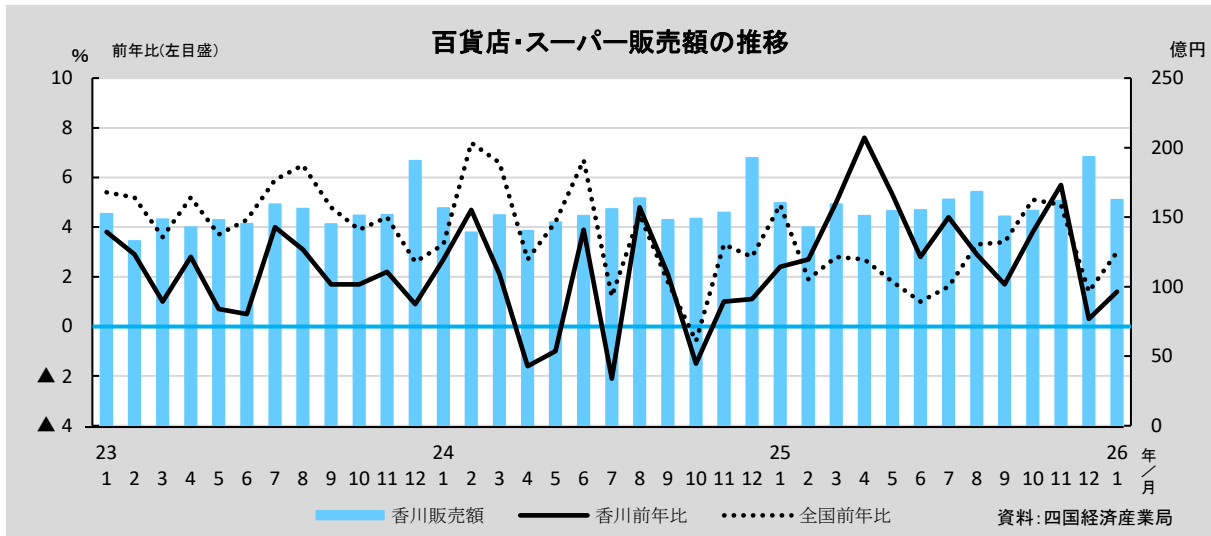
景気の現状をみると、12月のCI一致指数は95.9（前月比+0.4ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI先行指数は95.5（同+0.4ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は90.9（同▲3.7ポイント）と2カ月連続で下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業出荷指数、有効求人倍率等がプラスに寄与し、2カ月ぶりに上昇となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用景気指標	1 新規求人数	1.71	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.01	1 常用雇用指数	▲ 0.40
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.23	2 有効求人倍率	0.53	2 有効求職者数	▲ 0.51
	3 鉱工業在庫率指数	0.37	3 所定外労働時間指数	▲ 0.33	3 消費者物価指数	▲ 1.81
	4 新設住宅着工戸数	0.02	4 鉱工業生産指数	0.42	4 家計消費支出	▲ 0.61
	5 金融機関貸出残高	▲ 1.13	5 鉱工業出荷指数	0.61	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.33
	6 消費者態度指数	▲ 0.31	6 建築着工床面積	▲ 0.41	6 法人事業税調定額	0.78
			7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.37	7 第3次産業活動指数	▲ 0.75

●百貨店・スーパー販売額

15 カ月連続増加 ↑

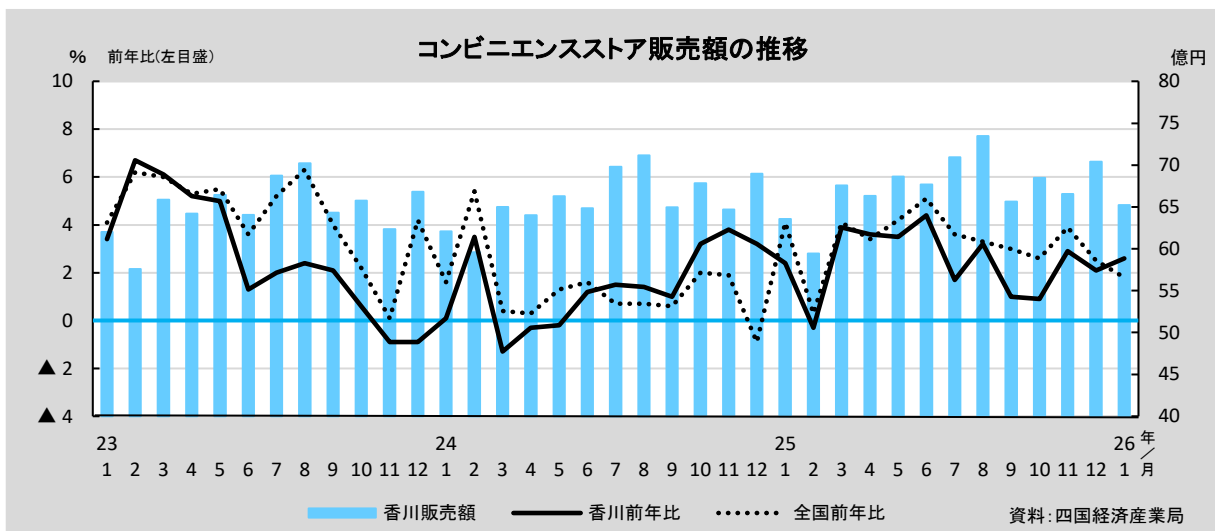


2026/1月	衣料品	身の回り品	飲食品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(百万円)	1,123	630	12,079	20	57	709	1,621	6	16,245
前年同月比(%)	2.3	▲ 11.8	1.4	19.6	2.9	▲ 1.9	8.9	11.6	1.4

1月の百貨店・スーパー全店(89店)の販売額は162.5億円で、前年同月比+1.4%と15カ月連続で増加した。「飲食品」は米や鶏卵の高値の継続、冷凍食品や総菜の動きが好調なことなどから同+1.4%と、「その他の商品」は高級時計などの高額品や玩具、化粧品が好調だったことなどから同+8.9%と前年を上回った。一方、「身の回り品」はインポートバッグの動きが鈍かったことなどから同▲11.8%と減少した。

●コンビニエンスストア販売額

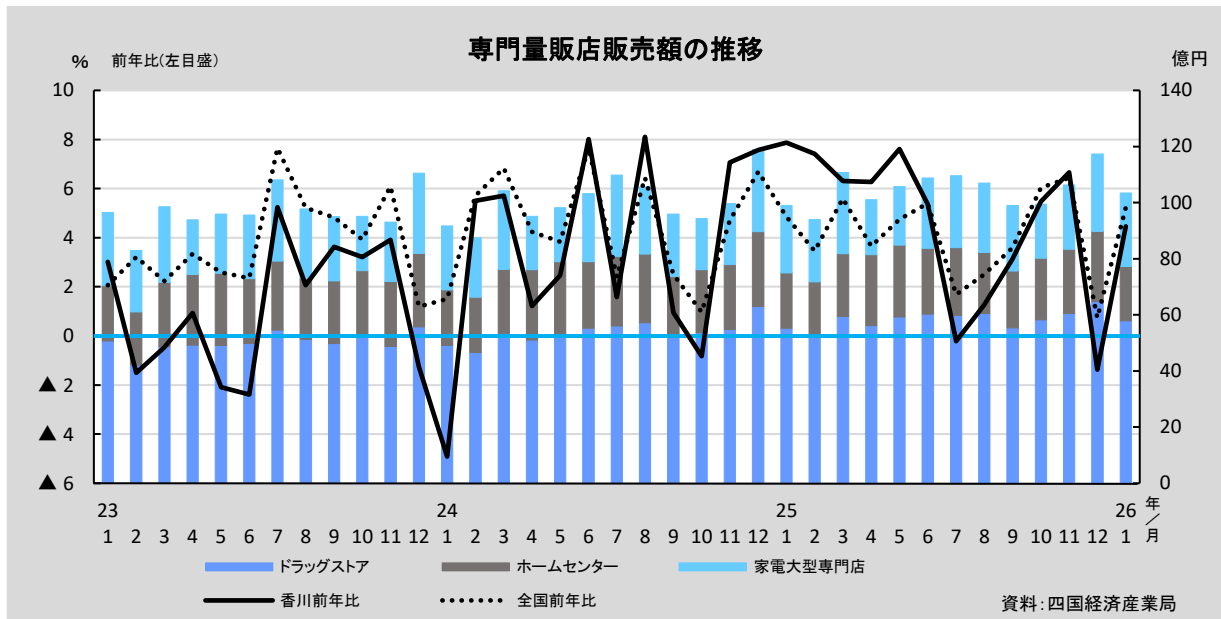
11 カ月連続増加 ↑



1月のコンビニエンスストア全店(409店)の販売額は65.2億円で、前年同月比+2.6%となり、11カ月連続で増加した。

●専門量販店販売額

2カ月ぶり増加 ↑

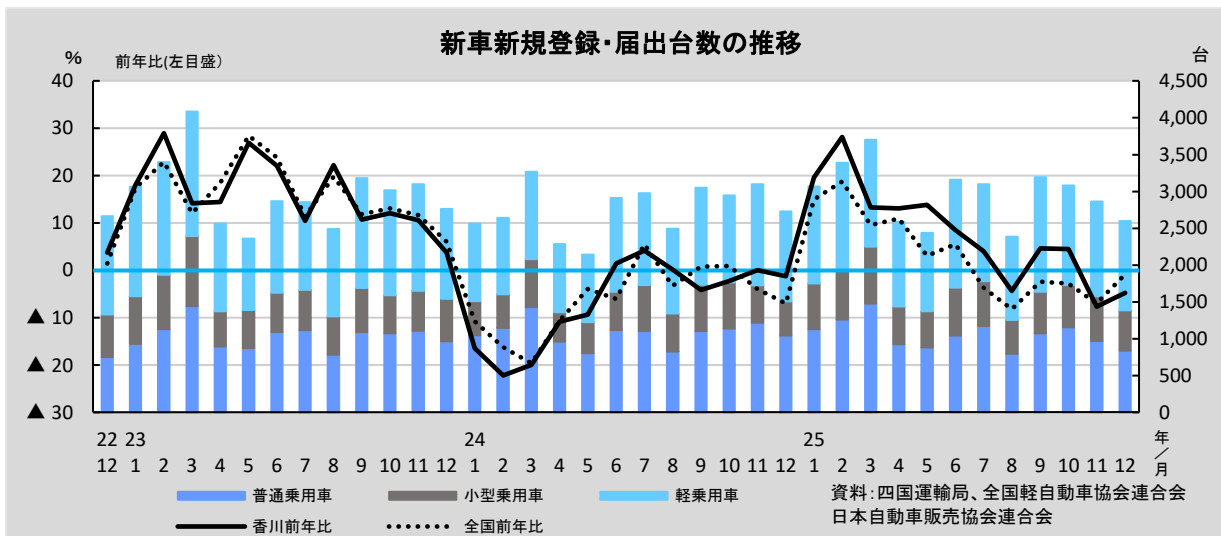


1月の専門量販店全店（238店）の販売額103.4億円で、前年同月比+4.5%と2カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、家電大型専門店（27店）の販売額は26.2億円で前年同月比+8.6%となった。ドラッグストア（165店）の販売額は、57.9億円で同+4.7%となった。ホームセンター（46店）の販売額は、19.4億円で同▲1.3%となった。

●新車新規登録・届出台数

2カ月連続減少 ↓

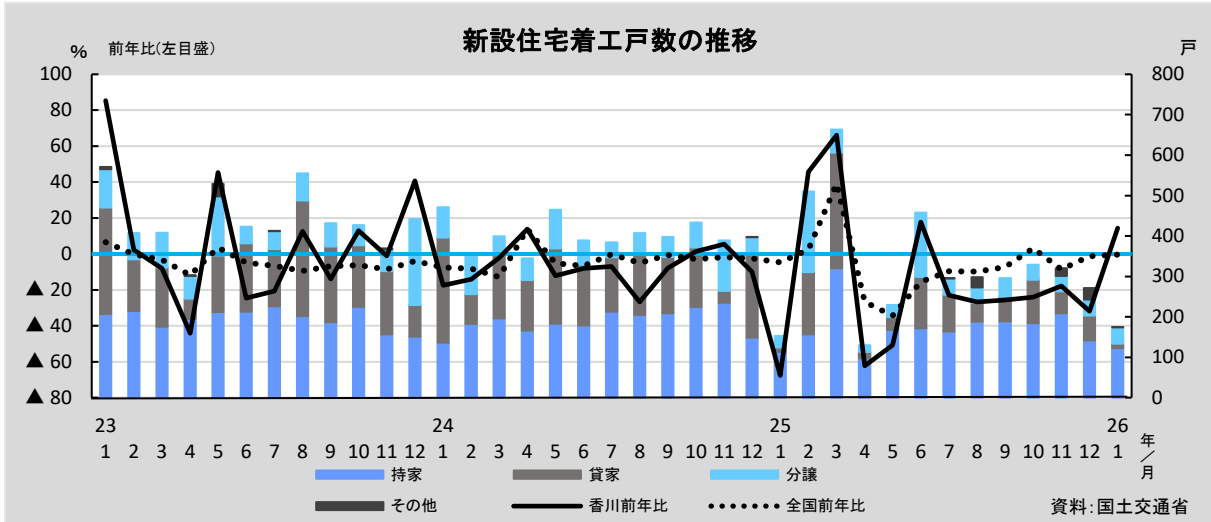


12月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,599台で、前年同月比▲4.7%と2カ月連続で減少した。

車種別にみると、普通乗用車は前年同月比▲19.4%、小型乗用車は同+17.8%、軽乗用車は同▲0.8%となった。

●新設住宅着工

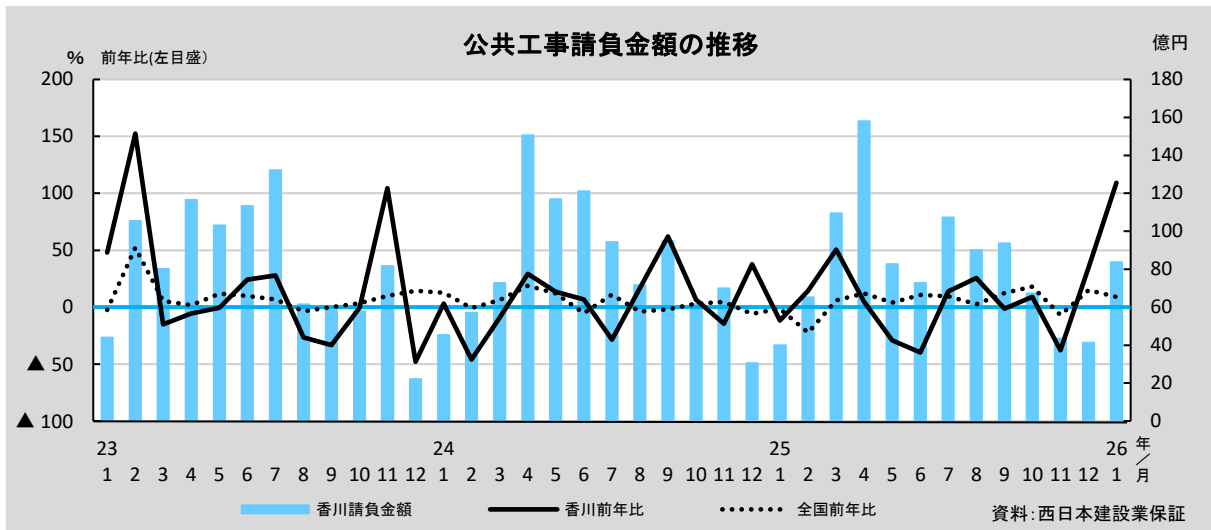
7カ月ぶり増加 ↑



1月の新設住宅着工戸数は175戸で、前年同月比+14.4%と7カ月ぶりに増加した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+8.8%、**貸家**で同0.0%、**分譲住宅**で同+37.9%となった。

●公共工事請負金額

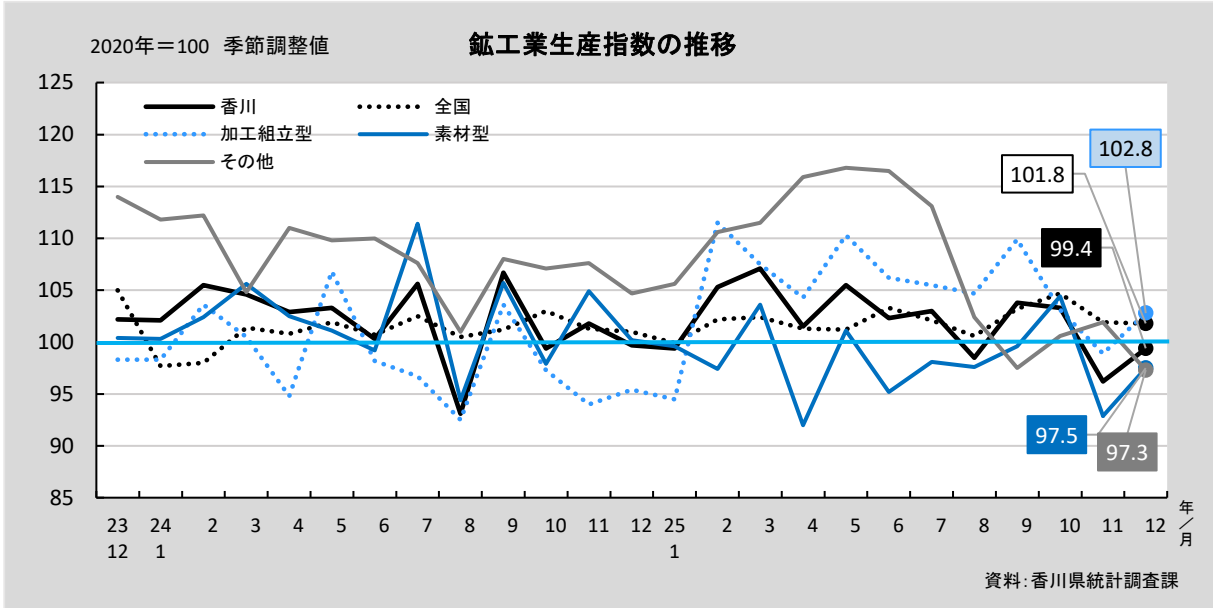
2カ月連続増加 ↑



1月の公共工事請負金額は83.7億円で、前年同月比+109.2%と2カ月連続で増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+60.3%、**県**で同+0.4%、**市町**で同+466.7%となった。2025年度(2025.4月～2026.1月)の累計では前年同期比▲1.3%と減少している。

● 鉱工業生産指数

3 カ月ぶり上昇 ↑

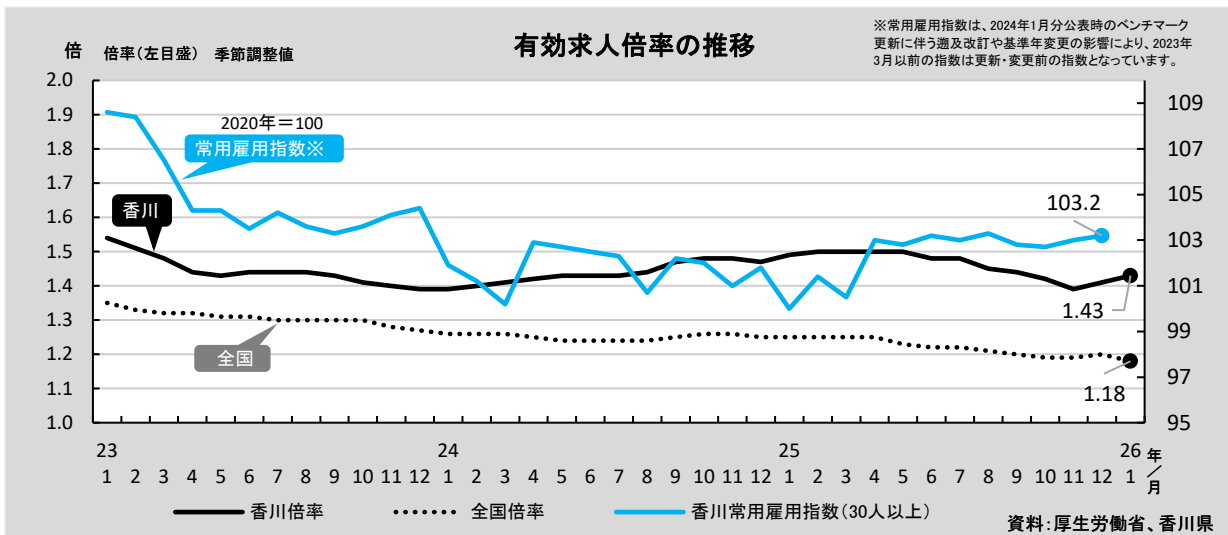


12月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は99.4（前月96.2）となり、3カ月ぶりに上昇した。

業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+10.6%、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は同+14.0%と上昇した。一方、その他業種の食料品工業（食用油など）は同▲7.1%と低下した。

● 有効求人倍率

2 カ月連続増加 ↑



1月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.43倍（全国5位）で前月より0.02ポイント上昇した。

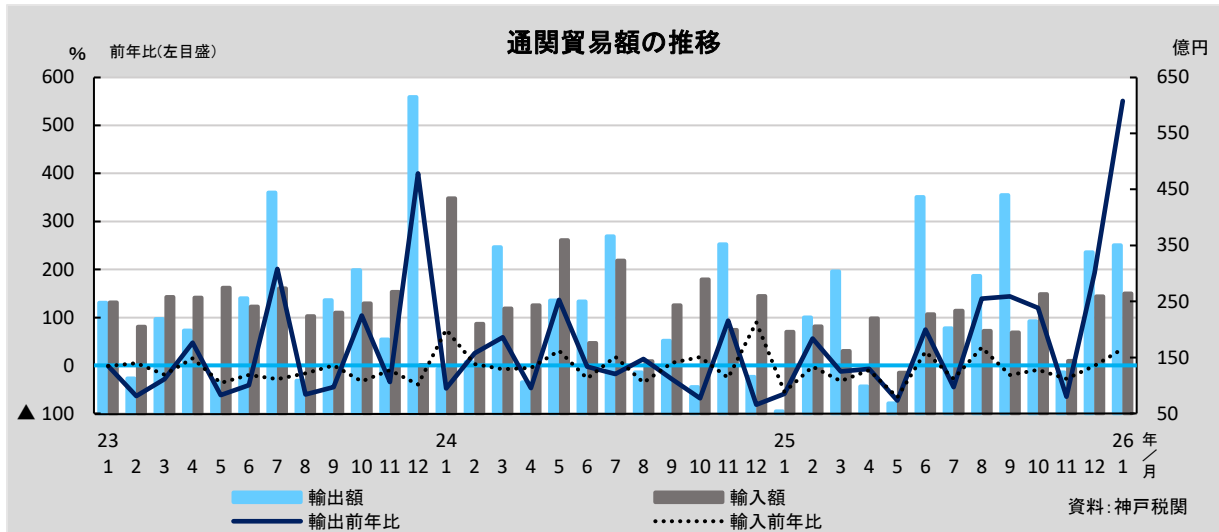
新規求人（原数値：前年同月比）は、医療・福祉、運輸業・郵便業、建築業等で増加となり、全体で+4.5%と2カ月連続で増加した。

12月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、103.2となり、前年同月比は+1.4と11カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.79
事務的職業	0.71
販売の職業	2.29
サービスの職業	3.35
生産工程の職業	2.57
輸送・機械運転の職業	2.28
建設・採掘の職業	6.22
運搬・清掃・包装等の職業	1.19

貿易

輸出、輸入ともに増加している

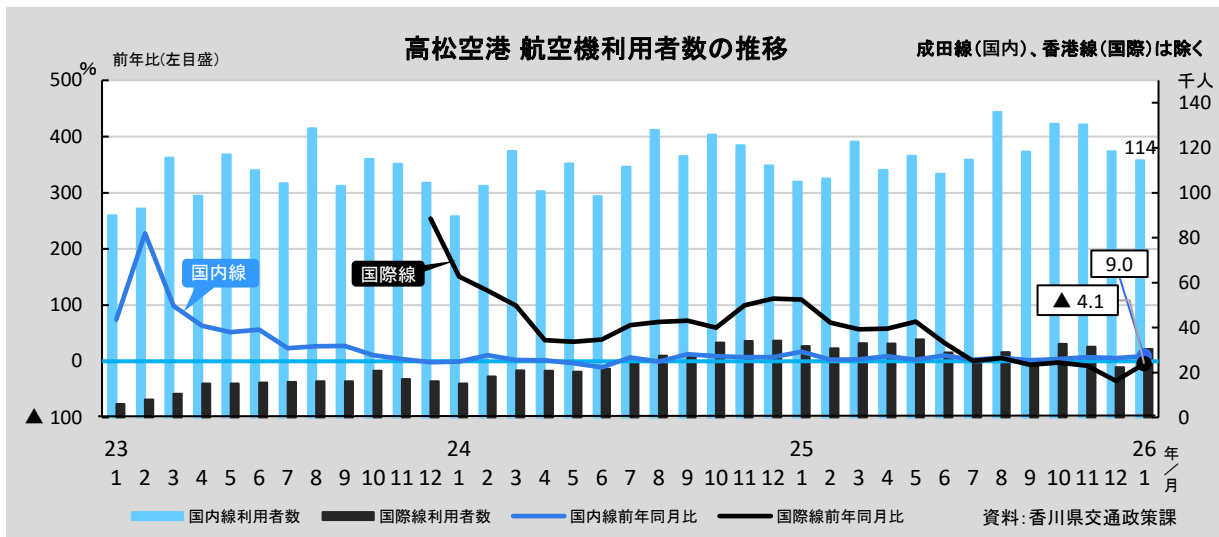


1月の輸出額は前年同月比+551.2%の350.3億円、輸入額は同+34.9%の264.1億円となり、差し引き86.2億円の出超となった。輸出は前年ゼロだった貨物船輸出額が147億円、タンカー輸出額が144億円となり増加に寄与した。輸入は石炭輸入額が前年同月比3倍の79億円となり増加に寄与した。

交通

国内線は17カ月連続増加、国際線は5カ月連続減少

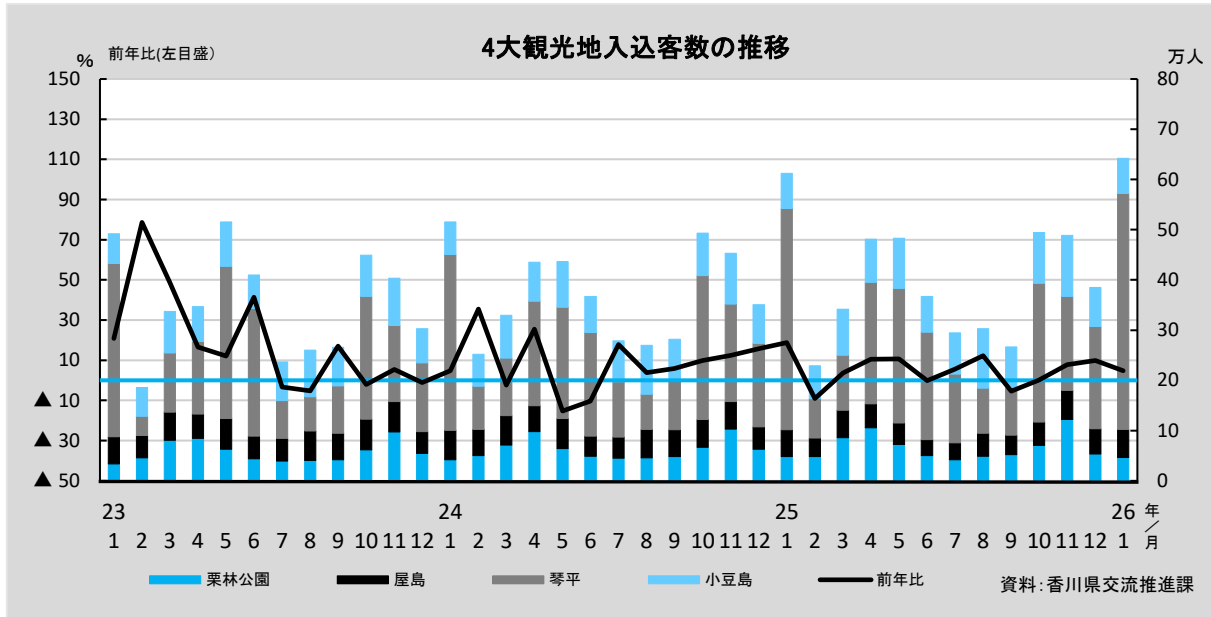
●高松空港旅客輸送実績



1月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が114,435人(前年同月比+9.0%)となり、17カ月連続で増加した。羽田線は106,081人(同+10.1%)、那覇線は8,354人(同▲2.6%)となった。

国際線は、ソウル線22,211人(同+4.1%)、上海線361人(同▲93.4%)、台北線7,939人(同+59.4%)で合計30,511人(同▲4.1%)と5カ月連続で減少した。

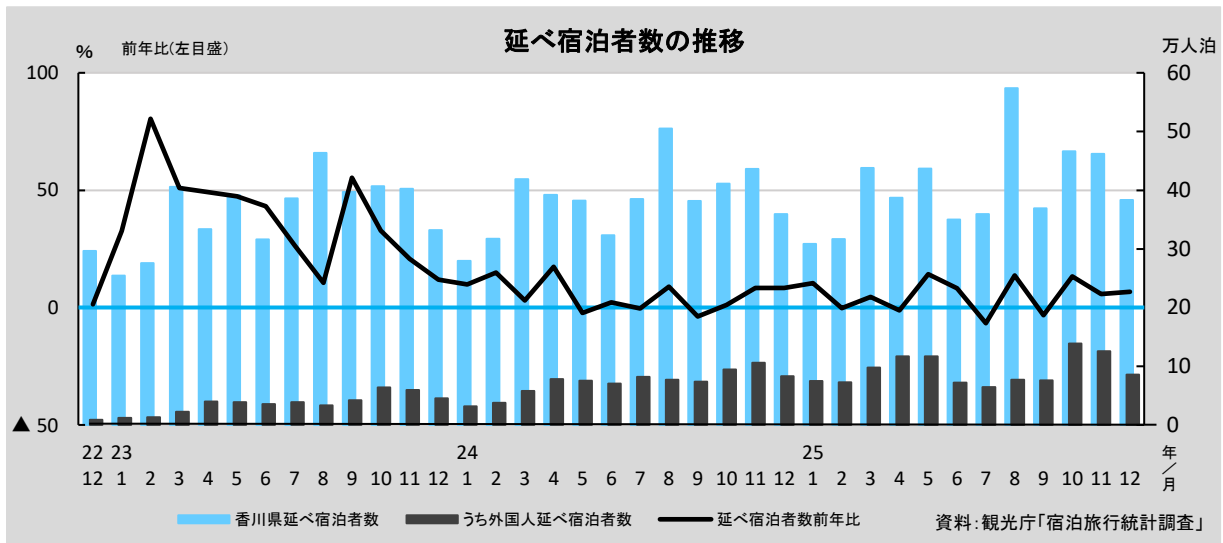
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
1月(人)	前年同月比	46,568 ▲3.8%	55,754 4.2%	470,000 6.8%	69,700 ▲1.3%	642,022 4.8%

1月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+4.8%と4カ月連続で増加した。屋島は前年同月比+4.2%、琴平は同+6.8%と増加した。一方、栗林公園は同▲3.8%、小豆島は同▲1.3%と減少した。

●延べ宿泊者数



12月の延べ宿泊者数 383,580 人泊で、前年同月比+6.7%と3カ月連続で増加した。うち、外国人延べ宿泊者数は 85,860 人泊となり、前年同月比+3.4%と5カ月連続で増加した。